

ブラジル通信第3回

～まるで結婚式?! ブラジルの誕生日会～

第3回の今回は、私が参加したブラジルの誕生日会の様子について書いていきます。3月のある日、私が指導している野球チームの保護者の方から娘さんの誕生日会に招待されました。その娘さんは野球を習っている訳ではありませんがお兄ちゃんがチームに所属しており、その関係で私も誘ってもらいました。先日、娘さんが5歳の誕生日を迎えたということで私も招待していただきました。日本でお子さんの誕生日と言えば、誕生日ケーキやプレゼントを買って、家族内で祝うという光景を思い浮かべる方も多いのではないのでしょうか?日本ではお子さんの誕生日と言えば家でお祝いをするのが一般的だと思います(少なくとも私の家族ではそうでした)。そのため誕生日会当日もその方の家でお祝いをすると思っていました。

当日は何かごちそうになるだろうなと思いつつ、ごちそうになるだけでは失礼になると思い、何かプレゼントを用意しようと考えました。まだ新しい町に着いたばかりで、どこに何のお店があるのか分からない私は、何かプレゼントを買うのではなく、折り紙を折って、その娘さんにプレゼントすることに決めました。「日本からいつか役に立つかもしれないと思って持ってきていた折り紙がこんなにも早く役に立つとは!!娘さんも喜んでくれるに違いない!!」と喜々しながら、キャンディボックスや、ぴょんぴょん跳ねるカエル、両端を引っ張ると「パシャ」と音がするカメラなどの折り紙を5つほど折りました。

そして、誕生日会当日、私の家にそのお父さんが車で迎えに来てくれました。その方の家は練習場の近くと聞いていました。私の家から車で4,5分くらいで着く距離です。早速、車に乗り込み、出発。しかし、10分以上経っても到着する気配がありません。明らかに練習場とは別の方向に向かっていると方向音痴の私でも分かりました。「家に着く前に何か買い物でもするのか?」と思いつつ、特にどこに向かっているのかも尋ねずに隣に座っていました。そしてしばらく車で走り続けた後、ある場所に到着。目の前には大きな建物が。窓からは複数の子供たちが走り回って遊んでいる様子が見えました。

「スーパーマーケットではないし、何か買い物する所でもないな、何をやるんだろう?」と疑問を抱きながら、「ここは何?」と尋ねると「誕生日会場だよ!」と返答が。てっきり家で誕生日会をすると思っていた私は良く状況が飲み込めませんでした。そのお父さんの後に続いて建物の中に入っていくと、びっくりする光景が。かなり大きな部屋に、9つほどの丸テーブル、各テーブルには7脚ほどの椅子、そして部屋の奥にはスクリーンがあって子供向けの動画が流れていました。そのスクリーンから視線を下の方に写すと、何と表現したらよいか分からない程の、豪華な飾りつけがされた立派な装飾物。日本でも以前、ブームになった「アナと雪の女王」をモチーフにした飾りつけがされていました。さ

らには子供が遊ぶための、手のひらサイズのボールで埋め尽くされた遊具、トランポリンや小さなフットサル場、ゲームセンターでよく見かけるバスケットボールのシュートゲーム、カーレースゲーム機などがありました。部屋の奥には調理場も見えます。

既に会場内には親戚の方や、女の子の友達や、その保護者の方々が集まって各テーブルで団欒していました。女性の参加者の中にはドレスを着ている方も居ました。合計で40人程の人がいたと思います。食事や飲み物を持ったスタッフの方が各テーブルを回っている様子も見えました。私もそのお父さんと同じテーブルに座り、食事をしたり、会場に居る方に挨拶したりしてしばらく過ごしました。

1時間ほど経った後、急に会場の照明が暗くなり、1ヶ所に照明が当てられました。一斉に会場の人々がそちらに集まりスマホのカメラを向けます。私もそちらに移動すると、レッドカーペットが用意されお母さんとお父さんから手を引かれて誕生日を迎えたその女の子が入場。会場内は華やかな音楽と歓声に包まれ、スクリーンには「アナと雪の女王」の映像が流れていました。演出の華やかさにもびっくり。入場を終え、会場の真ん中に女の子が移動すると写真撮影が始まりました。会場にいる方々が交代で写真を撮っていきます。写真撮影が終わると、参加者の方々が持参していたプレゼントを渡し始めました。その様子を見て、自分がプレゼントとして折り紙を持って来ていたことを思い出しました...他の方々が渡しているプレゼントは、両手で持つほどの大きさの箱に包まれリボンなどできちんと包装されています。私の予想ではその方の家で誕生日会が行われるはずだったので、ブラジルの誕生日会に圧倒されていた私は「こんな豪勢な誕生日会で、折り紙5個なんか渡せない！」とすっかり怖気着いてしまいました。前日、喜々して折り紙を折っていた自分の様子を思い出すと恥ずかしく感じました。結局、折り紙をバッグから取り出すことはなく、渡せずじまいに終わってしまいました（渡せば喜んでくれたらろうとは思いますが...）。そんなこんなでこの日の誕生日会は終了。

それから1か月程して、別の家族の方に1歳を迎えるお子さんの誕生日会にまた誘ってもらいました。もちろん、もう折り紙を折って準備することではなく、一緒に誘われた方と服を買ってプレゼントすることになりました。こちらの誕生日会も家で行われるのではなく、隣町の施設で行われました。こちらの施設にもびっくり。南国を思わせるヤシの木が外には並び、会場の前に広がる芝生の庭にはプールまでありました。会場内は10人掛けの大きな丸テーブルが10個ほど。部屋の前方にはこれまた豪華な装飾物が。チョコレートなどのたくさんのお菓子で飾られていました。食事はセルフサービスで、ビールサーバーも用意されていました。食後は写真撮影。それが終わると装飾物の中に並んでいるお菓子を参加者の方々が取ってテーブルに持ち帰って食べるというのもこういう会ではお馴染みのようです。私も子供達に交じってお菓子を取らせてもらいました。

これまで3回ほどブラジルの誕生日会に参加したのですが、ブラジルではこういう様にお子さんの誕生日会にはパーティー用の施設を借りて、親戚や子供の友達、その保護者の方々を招待して誕生日会をするのは一般的の様です。他の知り合いの方にも聞いた

ところ、彼もこれまで毎年、娘さんの誕生日会はそういう風に行っているとのことでした。日本でもこういう場所を貸し切って誕生日会をする方もいらっしゃるのだと思います。が、参加したことなかった私はすっかり圧倒され、まるで結婚披露宴の様な感じを受けました（ちなみに、ブラジルの結婚式はかなり盛り上がるようです。もし参加する機会がある場合は、こちらで紹介したいと思います）。

ブラジル通信第3回の今回は私が参加したブラジルでの誕生日会について書いてみました。参加した時の写真を載せていますのでどうぞご覧ください。ちなみに、渡せずじまいに終わった折り紙は今でも私の家の棚の中でこれから来るかもしれない他の出番をひっそりと待っています。



←風船や人形で装飾されたお菓子。またお子さんとそのご両親。



←誕生日会が行われた施設の様子。



←お菓子が入った風船を子供たちが割ろうとする様子と装飾物の中から私がいただいたお菓子。